

## 平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	世界一の確度をもつ過去200年間の沈着エアロゾルのデータベース創成と変遷解明
研究代表者	飯塚 芳徳 (北海道大学・低温科学研究所・助教) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、グリーンランド南東における高涵養量アイスコアを分析して過去200年間のエアロゾルデータベースを高時間解像度で作成しようとするものである。</p> <p>応募者らは、これまで、高涵養量コアには、高解像度で分析できるという利点や沈着したエアロゾルが変質を受けにくいという性質があることに着目し、既に過去60年間の高精度エアロゾルデータベースを作成・公開してきた。本研究では、これを更に人間の活動が気候変動に影響を及ぼし始めた時期にまで遡って展開するものであり、学術的意義は大きい。</p> <p>本研究により提供されるデータが広く引用されることは確実であり、気候変動予測の精度や信頼性向上にも貢献することが期待できる。</p>